

# News Letter VOL.01

発行/2022年12月28日 発行者/宮崎稔樹 (Toshiki Miyazaki/ロータリー財団グローバル補助金奨学生/国際ロータリー第2740地区)

## 大学院生活の紹介と現地ロータリー支部の訪問

### ★英国大学院で「メディアと国際開発」を勉強中！

初めまして。宮崎稔樹と申します。英イーストアングリア大学院(UEA)での留学生活が始まってから3か月が経過しました。私が住むノーリッジ(Norwich)は、イングランド中部に位置する人口約14万人の小さな都市です。中世にはイングランド最大の城塞都市として栄えており、街にはノルマン朝からテューダ朝時代にかけての建物や古い教会が多く残っています。私がこの場所で学んでいるのは「メディアと国際開発」。新聞記者とJICA職員の経験がある私は、約20人のコースメイトと紛争や災害などの人道危機が起きた際のメディアの役割などについて研究しています。学生の出身地域はアフガニスタンやミャンマー、ロシア、ナイジェリア、パキスタンなど多様でまさに人種の坩堝。各学生の実体験を踏まえた議論は刺激的です。また、開発学分野で世界大学ランキングトップ10に入る大学だけあって、学びに意欲的な学生が多いと感じます。私自身は授業の予習(英語文献)や課題に悪戦苦闘しながらも、優秀な仲間たちと充実した日々を送っています。



### ★現地ロータリー支部へ訪問 ★囲碁による国際交流

現地ロータリー支部とも交流を深めています。10月にはノリッジ支部(マイルズ・ネービル会長)を初訪問。会員約20人の支部で、若い会員の新規獲得が課題とのことですが、毎週木曜日の例会では会員の方が歌を披露するなど活気が溢れています。担当者のメアリー・ピアードウッドさんをはじめ、親切な人ばかりです。11月にはノリッジからバスで1時間程の場所にあるワットン支部を訪問しました。40分間の発表の機会を頂き、①長崎/佐賀について②これまでのキャリアと大学院での研究内容③将来の展望ーを中心に話をしました。私が新聞記者として5年間を過ごした東日本大震災と原発事故の被災地・福島の現状について多くの質問があり、関心の高さが伺えました。



UEAに来て驚いたことの一つは、大学内に囲碁サークルがあったことです。私はアマチュア七段で、中学・高校時代には個人・団体戦の両方で全国大会に出場していました。会員は級位者が多く私が指導する立場になるのですが、囲碁の考え方を英語で説明するのが何とも難しい。米国出身のプロ棋士による説明動画を参考にして英語力を磨きつつ、現地での囲碁普及・実力向上の一助になればと活動しています。一方で、彼らは英国の文化や食について私に教えてくれます。イギリス英語の聞き取りに苦労していることを打ち明けると、「イギリス英語こそ、真の英語だ」と冗談交じりに(半分は本気で)言っていました。私の拙い英語にいつも耳を傾けてくれる大切な仲間達です。



### 緑あふれる広大なキャンパス

UEAには学部生約1万3000人、大学院生約4000人が通っています(留学生は約3000人)。その多くは大学内の寮で生活しているのですが、このキャンパスの広さはなんと300エーカー(東京ドーム約28個分)です。教室間の移動で一番遠い場所だと徒歩で約30分かかるとは難点ですが、この緑と青空が広がるキャンパスは私のお気に入り。外周約2<sup>km</sup>の湖もあり、毎朝の散歩(時々ジョギング)が日課です。ウサギやリス、様々な野鳥が生息しており、勉強に疲れた時は、この自然の豊かさに癒されています。

